

## 第22回アジア原子力協力フォーラム(FNCA) 大臣級会合の結果概要について

令和4年1月25日

内閣府 原子力政策担当室

1. 開催日時 : 2021年12月9日(木) 11時~17時
2. 開催場所 : オンライン会合(日本側出席者はシェラトン都ホテル東京の東醍醐ホールで参加)
3. 主催者 : 内閣府・原子力委員会
4. 参加国等 : FNCAメンバー国(12か国):オーストラリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、日本、カザフスタン、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナムが出席(参加国代表リスト別添1)

※参画機関:国際原子力協力フォーラム(IFNEC)

### 5. 我が国の主な出席者 :

小林 鷹之 内閣府特命担当大臣(科学技術政策) ビデオ・メッセージ挨拶  
上坂 充 原子力委員長  
佐野 利男 原子力委員  
中西 友子 原子力委員  
覺道 崇文 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局審議官  
和田 智明 FNCA日本コーディネーター、他

### 6. 全体概要 :

- FNCA大臣級会合は、参加12か国の原子力科学担当大臣他が、原子力の平和利用に関する地域協力推進を目的として、年一度、政策対話を行うものである。
- 今回の会合では、国際原子力協力フォーラム(IFNEC)の推進グループ議長(米国エネルギー省原子力協力局国際協力担当次官補)である Ms. Aleshia DUNCAN(アレシア・ダンカン氏)より「IFNECの取組:原子力の平和利用と地域展開の重要性」、また上坂充原子力委員長より「研究炉と加速器のベストミックスによる医療用放射性同位体の製造と供給について」をそれぞれテーマとした基調講演が行われ、続いて本会合の主題である「研究炉、加速器とその関連技術の利用拡大」について、代表加盟国からのリードスピーチ

を中心とした政策対話（円卓会議）が行われた。本年度限りの特別賞として設けられた、FNCA ブレークスルー賞の受賞者紹介と受賞者記念スピーチの後、休憩を挟んで加盟各国の原子力政策、事業の進捗についてカンントリーレポート報告が行われた。最後に「新型コロナウイルスにより停滞を余儀なくされている FNCA プロジェクト活動正常化への努力」、「加盟国間での研究炉、加速器と関連技術について関連情報の共有と利用拡大」等に言及した「共同コミュニケ」を採択して終了した。全体を通じ、参加者間の活発な意見交換が行われた。（プログラム別添2参照）。

## 7. 会合議事概要:

### (1) 開会セッション

会合冒頭に小林鷹之内閣府特命担当大臣がビデオ・メッセージによる開会挨拶を行った。挨拶では、約2年間に及ぶ新型コロナウイルスの流行下において、それぞれの組織にてリーダーシップを発揮している各国代表に敬意を表した上で、①FNCAが2000年の発足以来、原子力の平和利用のあらゆる重要分野で顕著な成果を上げてきていること、②本日の政策討議を FNCA のプロジェクト活動に反映し、その活動成果を地域社会へ普及展開すること、③COP26の議論と決議に鑑み、カーボンニュートラルな社会の実現に向けて、原子力科学・技術の再評価が進むであろうことに言及し、④新型コロナウイルス禍で停滞する FNCA プロジェクトの早期、完全な復活を祈念すると結ばれた。

### (2)-① 基調講演概要 (Ms. Aleshia DUNCAN (アレシア・ダンカン氏))

#### 「IFNECの取り組み: 原子力の平和利用と地域展開の重要性」

最初に IFNEC の理念と目的、現状の組織と各活動グループの活動概要が説明された後、2022年以降、IFNEC が目指す重点領域として、①原子力についての平易で明瞭なコミュニケーションを通じた正しい原子力の理解を地域そして世代を超えて広めること、②原子力の平和利用拡大のために、タクソミーの可能性も含め、原子力導入をサポートするファイナンスを確立させること、③現在広く認識されるジェンダーバランスを原子力関係組織の中に導入、拡大させること、④SMR を始めとする原子力に関する技術革新を地域と国際機関の協調で進めることを挙げ、結論として、気候変動問題とその解決の必要性をより明確に意識する事が現状まず必要であり、そのために原子力に関する知識と経験、またそのベースとなるリソースを関係者間で幅広く共有すること、そして原子力に関する正しい知識と理解を平易に整理して広く浸透させることが重要であり、これらに対する目的を共有する戦略パートナー同志間の結束が必要であると結ばれた。

## (2)-② 基調講演概要(上坂原子力委員長)

「研究炉と加速器のベストミックスによる医療用放射性同位体の製造と供給について」

画像診断用とがん治療用の放射性医薬品の需要が世界的に高まってきているが、現在日本では、 $^{99}\text{Mo}$ をはじめ、多くの医療用放射性同位体を輸入に頼っている。海外に目を向けると、米国や欧州ではその安定的供給のための努力がなされている。

SPECT検査に最も多く用いられる $^{99}\text{Mo}/^{99\text{m}}\text{Tc}$ は現在世界6カ所の研究炉で生産されているが、これらの炉はいずれも老朽化が進んでおり、近い将来、深刻な供給不足が危ぶまれる。安定的供給の観点からはグローバル供給と域内生産のベストミックスが望ましいが、現状のグローバル供給網は脆弱性が高い。

一方、核医学治療に関して、日本の前立腺がん患者は $^{225}\text{Ac}$ 治療を求めて世界を移動しているが、 $^{225}\text{Ac}$ を移動させる体制が構築されるべきである。世界中で $^{225}\text{Ac}$ の製造方法が模索されているが、日本では、高速炉常陽が数年内の再稼働を目指しており $^{225}\text{Ac}$ の製造に期待がかかる他、QSTと日本メジフィジックスにおけるサイクロトロンによる $^{225}\text{Ac}$ 製造の研究開発が進められている。

また、閣議決定された成長戦略に基づき、RIの国内製造を目指した専門家会議を11月にJAECの下に立ち上げた。

今後は、世界の供給元を連携させた国際的供給網の立ち上げが急務である。

## (3)円卓会議

中西委員がセッション議長となり、本会合の主題である「研究炉、加速器とその関連技術の利用拡大」について、タイ、日本及びオーストラリアが、それぞれ、国家政策、技術そして実践(RI製造)の観点からリードスピーチを行い、質疑応答と対話を行った。3か国によるスピーチの概要は以下の通りである。

タイ(タイ原子力技術研究所:TINT)は、技術利用者から技術創出者への転換を目指す国家政策の下、5Mev(X-ray)と3/10Mev(electron beam)新規設備を2019年に稼働させ、BCG(Bio-Circular-Green)戦略に沿って、2021年に1600トンを超える食品照射、360トン以上のハーブ系サプリと医薬品への照射を実施した。また、中小企業に対して放射線照射効果の啓蒙と利用を促す活動を続けている。さらに医薬品製造を目的とした30Mevサイクロトロン設備が2022年に完成予定である旨の報告を行った。

日本からは、JAEAの大井川理事より、学術研究、中性子の産業利用、人材開

発、及び次世代炉の開発を目的とした日本の研究炉(8基)について、その現状と稼働計画、活用計画について報告が行われた。新規制基準対応で運転中断していたJRR-3がこの2月に再稼働して中性子研究やRI製造に活用されており、高強度プロトン加速器であるJ-PARCと併せ、多くの技術革新が産み出されることが期待されること、また再稼働に向け調整が進められている試験高速炉常陽が提供する高速中性子照射は、関連技術の多様な応用に利用されるとの報告であった。

オーストラリア原子力科学技術機構(ANSTO)から、原子力に関する組織の幅広い活動領域の紹介とともに、近年、新しい放射性核種の出現で目覚ましく発達してきた核医学について、ANSTOの知見の積み上げと現況が説明され、オーストラリアが現在製造する多種にわたる放射性核種の中で、 $^{99}\text{Mo}$ ,  $^{177}\text{Lu}$ ,  $^{131}\text{I}$ ,  $^{153}\text{Sm}$ ,  $^{99}\text{Mo}/^{99\text{m}}\text{Tc}$  は産業規模で製造されているとの紹介があった。またセラノスティクスに供される核種でいえば、現時点においてオーストラリアで産業規模の生産がされているのは  $^{177}\text{Lu}$  のみとなるが、需要が伸びるこの分野への供給力拡大に向けて、取組がなされていることが報告された。

#### (4)FNCAブレイクスルー賞の受賞者の紹介と受賞スピーチ

2020年度のプロジェクト活動が新型コロナウイルス感染症蔓延の為に全体的に停滞し、各国の活動状況にばらつきが生じた為に、当該年度、最も優れた活動を行った国別プロジェクトチームの選考と表彰を取り止め、過去5年間に最も評価される研究成果を上げた個人研究者を、今年度限りのブレイクスルー賞として表彰することとした。以下、ベスト・リサーチャー(1名)、エクセレント・リサーチャー(3名)が表彰され、ベスト・リサーチャーが受賞スピーチを行った。

・ベスト・リサーチャー (1) :Dr. Phiriyatorn Suwanmala

(フィリヤトロン・スワンマラ博士(タイ))

カッサバ・スターチを照射して超吸水剤(SWA)を作り、民間企業との協働で商業化による普及に成功、このSWAはタイのゴムの木の生存率を40%改善し、試験段階で43%の生産増を実現した。また廃棄物であったサトウキビの搾りかすからのSWAの製造も行い、国際的エキシビションでも金賞等を受賞して注目されたことが授賞理由である。

・エクセレント・リサーチャー(3) : ・Dr. Angel T. Bautista VII

(エンジェル・パウチスタ・7世博士(フィリピン))

気候変動科学プロジェクト

・Dr. Sobri Hussein

(ソブリ・フセイン博士)(マレーシア)

放射線育種プロジェクト

・水野秀行博士(日本 QST)  
放射線治療プロジェクト

(5) 国別報告

各国代表から、昨今の原子力政策や活動の進捗等について報告がなされた。我が国の報告は佐野委員より、①令和2年度版原子力白書の福島特集部分サマリー、②福島第一原発の「ALPS 処理水」をめぐる概況、③第6次エネルギー基本計画の策定、④NEXIPの取組、⑤RI応用に係る動き について行われた。

(6) コーディネーターズ会合、スタディ・パネル報告

和田FNCA日本コーディネーターから、2021年6月にオンライン開催された第21回コーディネーターズ会合の概要と「プロジェクトの年間活動と成果」が報告された。また、2021年3月にオンライン開催されたスタディ・パネルの概要が佐野委員から報告された。併せて2022年の定期会合の予定について、第23回大臣級会合が2022年10月にモンゴルで開催される等の説明があった。

(7) 共同コミュニケ採択

共同コミュニケの内容を確認し、採択した。

(別添3(英語)及び別添4(仮訳)参照)

(8) 閉会セッション

上坂委員長より閉会の辞があり、閉会された。

別添1: 参加国代表リスト

別添2: 会合プログラム

別添3: 共同コミュニケ(英)

別添4: 共同コミュニケ(日)仮訳

## 第22回 F N C A大臣級会合 加盟国参加代表者リスト

| 国名      | 氏名   | 組織・役職  |
|---------|--|--|
| オーストラリア | Mr. John EDGE<br>(ジョン・エッジ)                               | オーストラリア原子力科学技術機構 (ANSTO)<br>チーフオペレーションズオフィサー |
| バングラデシュ | Prof. Dr. Sanowar HOSSAIN<br>(サノワール・ホサイン)                | バングラデシュ原子力委員会<br>委員長                         |
| 中国      | Mr. DONG Baotong<br>(ドン・バオトン)                            | 中国国家原子能機構<br>副主任                             |
| インドネシア  | Mr. Edy Giri Rachman PUTRA<br>(エディ・ギリ・ラフマン・プトラ)          | インドネシア国立研究革新庁 (BRIN)<br>科学技術人材局 副局長          |
| カザフスタン  | Prof. Erlan BATYRBEKOV (エルラン・バティルベコフ)                    | カザフスタン国立原子力センター<br>総裁                        |
| 韓国      | Mr. Hyunjoon KWON<br>(クォン・ヒョンジュン)                        | 韓国科学技術情報通信部<br>宇宙原子力局 局長                     |
| マレーシア   | Ts. Dr. Mohd Nor Azman Bin HASSAN (モハメド・ノル・アズマン・ビン・ハッサン) | マレーシア科学技術革新省<br>事務次長                         |
| モンゴル    | Mr. Manlaijav GUNAAJA<br>(マンライジャフ・グンアジャフ)                | モンゴル原子力委員会<br>委員長                            |
| フィリピン   | Prof. Fortunato T. DE LA PEÑA (フォルトゥナト・T・デ・ラ・ペニャ)        | フィリピン科学技術省<br>長官 (大臣)                        |
| タイ      | Dr. Thawatchai ONJUN<br>(タワチャイ・オンジュン)                    | タイ原子力技術研究所<br>所長                             |
| ベトナム    | Dr. TRAN Ngoc Toan<br>(トラン・ゴック・トアン)                      | ベトナム原子力研究所 (VINATOM) 副所長                     |

**第 22 回FNCA大臣級会合(MLM)  
議題**

日 時:2021 年 12 月 9 日(木) 11:00~16:00

場 所:オンライン

主 催:内閣府・原子力委員会

円卓会議テーマ

“研究炉、加速器とその関連技術の利用拡大”

議事進行(セッション 1 及び 8):上坂委員長

- 11:00-11:15 セッション 1:開会セッション (15 分) [プレス公開]  
(議事進行) 上坂委員長  
開会宣言(委員長)  
大臣歓迎挨拶  
出席者自己紹介  
アジェンダ採択
- 11:15-12:05 セッション 2:基調講演及び関連質問(50 分) [プレス公開]  
(議事進行) 佐野委員  
基調講演-I : 国際原子力エネルギー協カフレームワーク(IFNEC) アリシア・ダンカン  
運営グループ議長  
基調講演-II : 原子力委員会 上坂委員長
- 12:05-12:50 セッション 3: 円卓会議(45 分) [プレス公開]  
(議事進行) 中西委員  
トピック:「研究炉・加速器とその応用技術の利用拡大」  
サブトピック(1):研究炉利用についての政策と課題 (タイ)  
サブトピック(2):研究炉・加速器、先端技術状況 (日本)  
スピーカー:JAEA 大井川理事  
サブトピック(3) RI製造関連(豪州)
- 12:50-13:10 セッション 4:FNCAブレークスルー賞表彰式(20 分) [プレス公開]  
(議事進行) マレーシア  
1) 最優秀/優秀研究者紹介  
ベストリサーチャー(1名): タイ  
エクセレントリサーチャー(3名): マレーシア、フィリピン、日本  
2) 表彰式  
3) 最優秀リサーチャー(タイ)によるスピーチ

13:10-13:40 <休憩(30 分)>

13:40-15:20 セッション5:国別概況報告 I <7分×12参加国+(Q&A 8分)×2回>(100分)  
(議事進行)前半 カザフスタン 後半 ベトナム

※日本のカントリーレポート発表:佐野委員

1.オーストラリア、2.バングラデシュ、3.中国、4.インドネシア、5.日本、6.カザフスタン  
(Q&A 8分)

7.韓国、8.マレーシア、9.モンゴル、10.フィリピン、11.タイ、12. ベトナム  
(Q&A 8分)

15:20-15:35 セッション6: 2021年CDM/SP報告と2022年会合予定 (15分)

(議事進行)モンゴル

1) 第21回コーディネーター会合(2021年)概要と22回会合(2022年)日程  
(発表:和田コーディネーター)

2) 2021年スタディ・パネル概要と2022年スタディ・パネル会合日程  
(発表:佐野委員)

15:35-15:55 セッション7: 大臣級会合の決議(共同コミュニケ)採択 (20分)

(議事進行)フィリピン

15:55-16:00 セッション8: 閉会セッション(5分)

(議事進行)上坂委員長

閉会宣言の辞

Forum for Nuclear Cooperation in Asia (FNCA)  
Joint Communiqué  
on the New Direction of the FNCA  
adopted at the 22<sup>nd</sup> MLM, held virtually on December 9, 2021

We, the heads of delegation of countries participating in the FNCA: the Commonwealth of Australia, the People's Republic of Bangladesh, the People's Republic of China, the Republic of Indonesia, Japan, the Republic of Kazakhstan, the Republic of Korea, Malaysia, Mongolia, the Republic of the Philippines, the Kingdom of Thailand and the Socialist Republic of Vietnam,

Recalling that the FNCA's objective is to promote social and economic development through active regional partnerships for the peaceful and safe utilization of nuclear technology, and that R&D, knowledge, information sharing and capacity building are, inter alia, the main roles and activities of the FNCA, which will lead to social and economic well-being of the member countries,

Noting that nuclear energy can contribute to energy security, access to baseload power and reducing and/or avoiding emissions of greenhouse gas as stated in the Communiqué of the G20 Ministerial meeting on Energy Transitions and Global Environment for Sustainable Growth in June 2019,

Acknowledging the potential of radiation technology and related FNCA projects in areas such as sustainable agricultural development; food safety; eco-friendly industrial development, mitigation of the effects of climate change; and conservation of natural ecosystems,

Noting the need for reinforcing cooperation among the member countries on the issues of environmental protection and the countermeasures to climate change, which was recognized anew through the discussion on the topic of "Nuclear Isotopic Technology and Climate Change" in the 2021 Study Panel in March 2021,

Appreciating the progress made by the FNCA clinical research project in radiation therapy and the associated ongoing clinical trials for cervical, nasopharyngeal, and breast cancer, as well as the importance of technical cooperation and interaction between industry and academia with respect to radiation therapy equipment and related cutting-edge technology,

Recognizing the difficulties in securing required human resources in the nuclear science and

technology field arising from an ageing workforce,

Recognizing the importance of research reactors and their application for the development of member countries including in neutron activation analysis (NAA), boron neutron capture therapy (BNCT), neutron radiography (NR), material studies and radioisotope production,

Noting that the member countries agreed on the program of project activities in and after 2021, which had stagnated due to the worldwide spread of the COVID-19 pandemic during the year of 2020, at the 21<sup>st</sup> Coordinators Meeting held virtually in June 2021 for their full-fledged resumption on the wane of the pandemic, and that it has commenced by holding workshop meetings including virtual meetings,

Welcoming the initiative by IAEA to have commenced the Zoonotic Disease Integrated Action (ZODIAC) project to strengthen the capacity of Member States in combating zoonotic diseases through the use of nuclear and nuclear-derived techniques and the Agency's network of international research institutions,

Recognizing the importance of cooperation with nuclear international organizations such as the IAEA, OECD/NEA, IFNEC and other relevant national organizations

Appreciating the progress of the FNCA project activities in agriculture, industry, medicine and environment, and commending the winners of the FNCA Breakthrough Prizes for their outstanding achievements,

Welcoming the continuous efforts being made by the IAEA to advance the safe and peaceful utilization of nuclear science and technology for the development of the socio-economic well-being of the world,

We have decided to work towards:

1. The normalization of FNCA project activities and regular meetings

Maximise efforts continuously to normalize promptly FNCA project activities and the several regular meetings in response to the constraints brought about by the COVID-19 pandemic while ensuring

the safety of the project researchers and participants as a prerequisite and subject to the national health policies of the respective member countries ,

Request the coordinators to proceed with the existing and the new projects by making the best use of virtual means such as online meetings where appropriate under the current circumstances,

## 2. Future cooperation between the FNCA and the IAEA in the area of human health

Anticipating that the IAEA will make necessary coordination with the relevant international organizations including the WHO and FAO without duplicating existing mandates in combating zoonotic diseases including COVID-19, explore possible collaboration between the FNCA and the IAEA on the ZODIAC project in the future,

## 3. Promotion of cancer treatments with radiation technology in Asia

Accelerating the FNCA project in the member countries according to the policy established by the project leaders and endorsed by the member countries during the Round Table Discussion in the 2019 Ministerial Level Meeting to enhance cancer therapy with radiation technology in the Asian region,

Continue and intensify the efforts also through the cooperation with the relevant international organizations to develop and disseminate innovative technology related to radiation therapy,

## 4. Cooperate in addressing issues of environmental protection and countermeasures to climate change

In view of frequent occurrence of extreme weather worldwide in the recent years, encourage the member countries to reinforce their cooperation on the issues of environmental protection and the countermeasures to climate change, and proceed with the projects related to climate change continuously,

## 5. Enhance the practical use of research reactors and accelerators

In accordance with the discussion on “The Enhancement of Utilization of Research Reactors and Accelerators” at the Round Table Discussion of the 22<sup>nd</sup> FNCA Ministerial Level Meeting, promote information exchange with respect to research reactors and accelerators as well as the reciprocal

usage of the facilities among the member countries,

#### 6. Spread of the R&D results

Encourage the member countries to utilize the outcomes of projects on mutation breeding, radiation processing, research reactor utilization, isotope production and neutron activation analysis with end-users, including the private sector, taking into account the possibility of their commercialization, which can more effectively contribute to the member countries' socio-economic well-being,

#### 7. Enhancement of public communication, public relations functions and cooperation with relevant international institutions

Adopt "Building up public trust on nuclear science and technology" as the topic for discussion at 2022 Study Panel to share knowledge and good practices among the member countries, and put their learnings to good use for their building up public trust on their relevant activities,

Continue to promote public communication to raise an awareness of, and build public trust in, nuclear technology through the public relations functions of the FNCA such as its website and open lectures in the member countries, and make efforts to further reinforce the relationships with relevant international institutions including IAEA, OECD/NEA and IFNEC,

#### 8. Other areas and activities to be promoted

Promote activities related to the applications of nuclear science and technology, particularly in sustainable agriculture development and food security, environmental protection, medical care and human health, and infrastructure development for nuclear safety and security culture, by accelerating existing R&D areas, and by adopting possible future R&D areas to support their sustainable development,

#### 9. Cooperation in HRD of the nuclear technology and science field

Activate organizational exchange of human resources among universities and research institutions, and of information related to the reinforcement of HRD infrastructure in accordance with the individual demand and situation of the member countries by utilizing virtual means such as webinars and/or online workshops where appropriate.

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)  
FNCAの活動方針に関する共同コミュニケ  
2021年12月9日採択(於オンライン会議)(仮訳)

我々、FNCA参加国であるオーストラリア連邦、バングラデシュ人民共和国、中華人民共和国、インドネシア共和国、日本、カザフスタン共和国、大韓民国、マレーシア、モンゴル国、フィリピン共和国、タイ王国及びベトナム社会主義共和国の代表は、

積極的なパートナーシップを通じて、原子力技術の平和的で安全な利用を進め、地域の社会的経済的発展を促進するとともに、加盟国の社会的、経済的充実につながる研究開発、知識と情報の共有及びその蓄積がFNCAの主要な役割と活動目的であることを想起し、

持続可能な農業発展、食物安全、環境に配慮した工業開発、気候変動への影響軽減及び自然生態系の保護の分野における放射線技術の潜在的可能性とFNCAプロジェクトの価値を認め、

2021スタディ・パネルにおける「放射性同位体技術と気候変動科学」の討議を通じて再認識された、加盟国間における環境保護及び気候変動対策強化の必要性を認め、

FNCA放射線治療プロジェクトとそれに付随する子宮頸がん、咽頭がん、乳がんについての臨床研究の進捗、及び放射線治療の先端技術と機器についての産学交流の重要性を認識し、

従事者の高齢化により生じる、原子力科学・技術分野における必要な人材基盤強化と知識の継承の重要性を認識し、

研究炉、及び加盟国の発展に寄与できる中性子放射化分析(NAA)、ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)、中性子ラジオグラフィ(NR)、材料研究及び放射性同位体の生産など、その応用の重要性を認識し、

新型コロナウイルスの世界的蔓延により2020年では停滞したFNCAプロジェクト活動の蔓延収束に合わせた全面的再開を目指して、2021年度以降の活動予定について2021年6月開催の第21回オンラインCDMで合意し、そしてオンラインワークショップ等の開催により、その活動が再開されたことを認め、

IAEAの提唱する原子力技術及び原子力由来技術やIAEAと関連研究機関との国際的な研究ネットワークを活用し、IAEA加盟国における人畜共通感染症対策能力を強化するためのZODIAC事業を開始したIAEAのイニシアティブを歓迎し、

IAEA や OECD/NEA 及びIFNECに代表される原子力関連国際機関、関連組織との連携の重要性を認識し、

農業、工業、医療及び環境分野における FNCA プロジェクト活動の進捗を評価し、FNCAブレイクスルー賞受賞者の際立った功績を称え、

以下に向けて活動する

#### 1. FNCA プロジェクト活動及び各種会合の正常化

FNCA 各国は現環境下、関係する研究者、参加者の安全確保を大前提に、また各国の健康についての規制に従って、新型コロナウイルス蔓延で影響を受けた FNCA の研究活動の正常化と国際会合の通常開催に向けて最大限の努力を継続する。

現環境下、加盟国コーディネーターに対し、オンライン会合といったバーチャル手法を駆使した既存及び新規プロジェクトの推進を要請する。

#### 2. 医療分野でのFNCAとIAEAの将来的連携

新型コロナウイルス感染症を含む人畜共通感染症対策において、既存の事業に重複しない形で、IAEAが FAO やWHO等との他の国際機関との調整を行うことを期待し、将来的にFNCAとIAEAの協力の可能性を探求する。

#### 3. 放射線治療の促進

アジア地域における放射線を利用したがん治療の拡大を継続して促進する。

メンバー国における FNCA 放射線治療プロジェクトを、プロジェクトリーダーの主導の下、2

019年のMLMにおいて確認されたアジア地域のがん治療の強化に取り組むという参加国の方針を踏まえて促進する。

また、革新的な放射線治療技術の進展や普及に向けた取組を関連国際機関との連携等により継続、強化する。

#### 4. 環境保護及び気候変動対策における協力

近年の世界的な異常気象の多発に鑑み、環境保護及び気候変動対策における協力の強化を加盟国に促し、気候変動科学プロジェクト等関係プロジェクトを継続、推進する。

#### 5. 研究炉、加速器の利用拡大

第22回 FNCA 閣僚級会合の円卓会議での研究炉、加速器の利用拡大についての討議に沿って、加盟国間での関連情報共有と設備の相互利用拡大を促進する。

#### 6. 研究成果の普及

放射線育種、放射線加工、研究炉利用、中性子放射化分析及びアイソトープ製造などのプロジェクト技術成果の最終ユーザーによる利用を、社会の福祉、経済へより効果的な貢献ができる商業化の可能性も考慮しながら、加盟国において促進する。

#### 7. パブリック・コミュニケーション及び広報機能の拡大

2022年スタディ・パネルで「原子力科学・技術に対する国民信頼の構築」を採り上げ、信頼構築についての情報、事例を共有し、加盟各国及びアジア地域での原子力科学・技術に対する国民信頼の構築に取り組む。

FNCA のウェブサイト、加盟国でのオープンセミナーやオープンレクチャー等の広報機能の拡大に努力し、IAEA、OECD/NEA 及びIFNECなど関連国際機関との協力関係を強化する。

#### 8. その他促進すべき分野と活動

加盟国全般で優先度の高い、持続的農業の発展と食品安全、環境保護、医療、及び核の安全と保全文化のための基盤開発に関連する原子力科学・技術の応用分野における活動を拡大する。これに際しては、現存の研究開発分野を促進するとともに、加盟国が

幅広く関心を持ち、持続可能な発展に寄与する研究開発の将来的分野を積極的に採択する。

#### 9. 原子力科学・技術分野における人材基盤強化のための協力

各加盟国の必要性や状況に応じ、FNCAのネットワークを活用して大学、研究機関間の組織的な人材交流や人材基盤強化に関する取組の情報交換をWebinarやオンラインでのワークショップ等の開催の手段を活用しながら、促進する。